

入退院支援室を外科の患者さんを対象に開設しました

～「入院前から退院後まで、患者さんご家族をサポート」～

入退院支援室とは？

患者さん、ご家族が安心して治療に専念していただけるよう、入院前から退院後まで各専門のスタッフが連携し、支援するところです。

ときどき入院、ほぼ在宅

日本の高齢化により医療や介護を必要とする人の増加は著しく、病院中心の医療は見直され「ときどき入院、ほぼ在宅」の医療に向けた改革が進められています。近年、医療は“病院で治す医療”から“生活を支える医療”に変化しています。入院は非日常であり生活の通過点に過ぎない、と捉え医療やケアを患者さんの自宅や地域での生活を中心に考えるようになってきました。

国は、2018年の診療報酬改定において、病気になる入院しても住み慣れた地域で継続して生活ができるように、入院前から退院後も切れ目なく繋ぐためのシステムPFM(パシエント・フロー・マネージメント)を導入・推進を掲げています。PFMとは、患者さんが安心して医療を受けられる

よう入院前から身体的・社会的・精神的背景を把握し、外来通院・入院治療・退院後の一貫した支援を行う、というものです。全国の病院でこのシステムを導入する動きが出ています。

草加市立病院のPFM

当院は、2016年8月より各病棟に一人ずつ退院支援看護師を配置し、入院中の患者さんが安心して退院・転院できるようソーシャルワーカーと協働して支援を行っております。

そして、前述のPFMワーキング導入を開始すべく、2018年11月より「入退院支援室」を開設しました。現在看護師2名で対応し、入院が決定した患者さんに対して、基本情報の確認・手術検査説明・薬に関する説明等を行います。またこれまで入院した後に行っていた退院支援を、入院する前から患者さんの状態・状況を把握することで、スムーズに生活の場に戻れるよう支援しています。現在はまだ、外科の患者さんを対象にしておりますが、今後は全診療科の予定入院患者さんに広げたいと考えております。

退院から外来通院の流れ

入院中のご様子は、外来看護師と共有するようにしています。外来受診の時、患者さんご家族に退院後の様子を伺います

ので、ご自宅でお困りのことや不安なことがあればご相談ください。

患者さんご家族が、住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、支援します。

入退院支援室の支援内容

入院前

- ・入院生活の説明
- ・治療計画の説明
- ・患者さんの身体的・社会的・精神的背景の聴取
- ・手術オリエンテーション
- ・病室・食事の希望
- ・介護サービスの確認
- ・内服薬の確認 中止薬の説明
- ・医療費の相談
- ・不安なことなどの相談



その他、ご相談内容により、医師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカーなどと連携し、サポートします

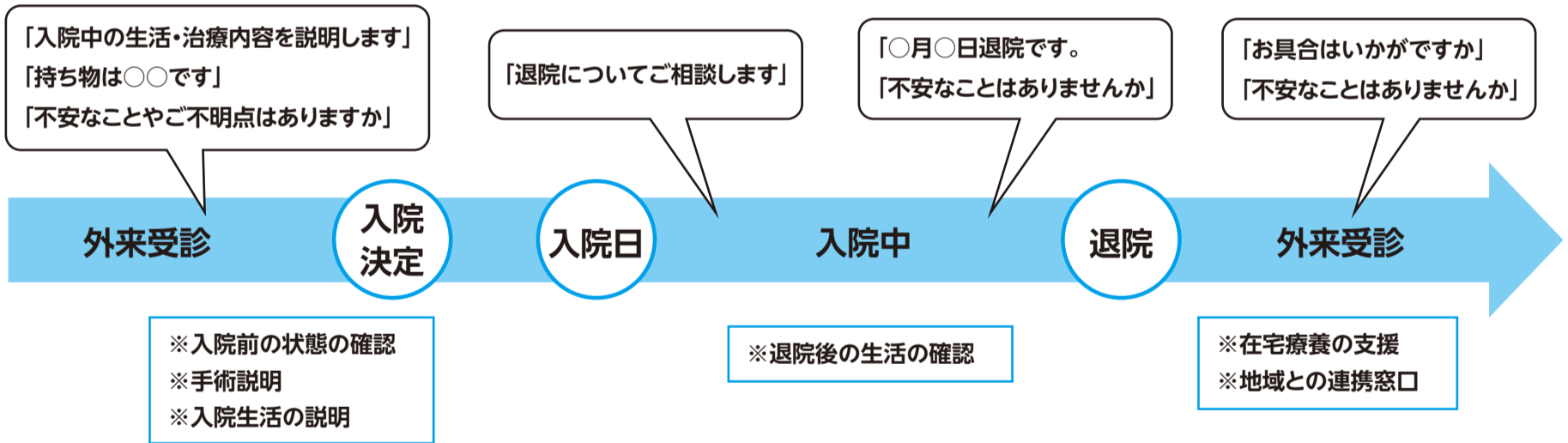
退院後

- ・外来通院の相談窓口

場所:本館2階20番
 時間:平日8:30~17:00
 第1・3土曜日8:30~12:30

入退院支援の流れ

医師から「入院が必要です」と告げられてから支援が始まります。専任の看護師が面談を行い、患者さんの状態を把握し、入院に対する不安が少しでも解消できるようサポートします。院内の多職種と連携して、患者さん一人ひとりに合った入院治療・看護が提供できるように努めています。



(左)坂下 真由美看護師、(右)井出 伸子看護師

原点に戻っての再出発

草加市病院事業管理者 河野 辰幸

最新の建造物と設備、そして高い理念を掲げ現在地で新病院が出発したのは2004年のことです。その後、心臓・脳血管センターの開設や24診療科体制の整備などが行われ、病院としてのハード面は市民の期待へ十分応え得るものとなりました。しかし、一昨年発覚した婦人科腹腔鏡手術の問題は医療安全やコンプライアンス、ガバナンスのあり方が問われるものであり、ソフト面での課題が浮き彫りとなりました。また、開示の財務諸表に示された通り、最近数年間の経営諸指標悪化も大きな問題です。職員一丸となり産婦人科問題の解決と経営改善に取り組み始めてはいるものの大きな壁があります。私が管理者へ就任して11か月が経ちました。新病院への移転時の大きな夢を市民の皆様とともに思い起こし、再度理想へ向かって歩み始める亥年にしたいと思います。